

第3回府中市市民協働推進会議 会議録

- 日時 平成27年11月18日（水）午前10時～11時45分
- 会場 市役所西庁舎3階第3委員会室
- 出席者 （委員）
藤江会長、長谷部副会長、雄勝委員、奥村委員、志水委員、神野委員、関口委員、長島委員、松木委員、吉井委員
（事務局）
岩田市民活動支援課長兼市民協働推進担当主幹、松本市民活動支援課長補佐、板橋市民協働推進担当副主幹、新妻市民協働推進担当主査、佐藤事務職員
- 欠席者 田中委員
- 傍聴者 2名
- 議事
1 開会
2 議題 協働事業の評価手法等の検討について
- 資料
1 各委員からの意見を踏まえた協働事業等評価制度の検討状況（資料1）
2 協働事業評価フロー（イメージ図）（資料2）
3 協働事業評価シート（案）（資料3）

1 開会

(会長) 定刻になりましたので、第3回府中市市民協働推進会議を開会いたします。まず、事務局から本日の委員の出席状況などについて、報告をお願いします。

(事務局) 本日はご多忙のところ、本会議にご出席いただき、ありがとうございます。それでは、事務局から何点かご報告を申し上げます。まず、本日の出席状況でございますが、松木委員から30分程度遅れるとの連絡を受けております。なお、本日は定数11名中9名の委員の皆様に出席をいただいております。

したがいまして、過半数を超えておりますので、本会議は有効に成立していることを併せてご報告します。

続きまして、本日の傍聴ですが、現在までに2名の方の応募があり、2名の方がいらっしゃっています。傍聴の許可につきまして、本会議のご判断をいただきたいと存じます。

(会長) それでは、委員の皆さんにお諮りします。傍聴を許可してよろしいでしょうか。

(※「異議なし」の声あり)

(会長) それでは、異議がないということですので、傍聴者の入場を許可いたします。事務局をお願いします。

(※傍聴者入場)

(※入場後)

(※事務局より資料の確認)

(会長) それでは、議事を進めます。前回8月31日に実施した第2回目の会議の議事録につきましては、事前にご確認いただいておりますが、改めて修正等でお気づきになることはございますか。よろしいでしょうか。

それでは、第2回目の会議の議事録として確定させていただきたいと思っております。事務局は、前回の議事録及び資料を、市役所3階情報公

開室、中央図書館、ホームページ等で公開するよう手続をお願いします。

2 議題 協働事業の評価手法等の検討について

(会長) これより議題に入りたいと思います。議題の「協働事業の評価手法等の検討」について、事務局からお願いします。

(事務局) 議題の「協働事業の評価手法等の検討」につきまして、事務局よりご説明させていただきます。

まず、今年度の会議については、第1回・第2回の会議でもお伝えいたしましたとおり、本日の会議を含めて、あと2回で評価手法について検討いただくものでございます。

このため、本日の会議では、前回にも増して、より多くのご意見をいただきたいと考えております。

開催通知と同封いたしました「協働事業の評価手法等の検討に当たってご確認いただきたいポイント」をご覧ください。今回、会議をよりスムーズに行うため、会議資料の作成意図などを記載した補助資料を作成しました。

資料1をご覧ください。本日の会議では、基本的には前回の資料4「協働事業等評価制度の構築について」をもとに、継続して評価制度の検討に向けてご意見を頂戴できればと考えております。前回の会議でどういった意見が出ていたかなどを一覧でご覧いただいた方が議論もスムーズと思いますので、いただいた意見や市の考え方が一目でわかるよう、こちらのシートに記載したものです。

資料の構成といたしまして、「項目(案)」と「内容」は、前回の会議の資料4の内容を転記したもの、「推進会議における質疑・意見等」については、前回の会議でいただいた皆様の意見を記載したもの、「意見を踏まえた制度構築に向けた市の考え方等」については、前回の会議での質問等に対する事務局の回答を記載しております。

なお、答申書の基礎となる資料と考えていることから、今後もち

らのシートに意見を集約していきたいと考えております。

資料2をご覧ください。

評価制度の全体像や流れを把握いただいた方がスムーズにご議論いただけると思いますので、事務局のイメージではございますが、可視化したフロー図を作成いたしました。

資料の上段部分は、市民及び事業主管課が実施するもので、事業計画段階・事業実施段階・事業終了段階で、それぞれ自己評価シート及び相互評価シートを用いて協働の原則に則って協働事業を実施できているか評価を行っていただきます。

まず事業計画段階でございますが、事業を計画するに当たって、協働の原則を意識して打合せを行っていただき、自己評価・相互評価を実施していただきます。事業実施段階においても、計画段階と同様に、協働の原則を意識して打合せ等を行っていただきます。計画時には気を付けていたことも、実施段階を迎えて情報共有がおろそかになってしまうことなど、様々な状況が想定されます。そういった場合に、協働の原則を再確認いただき、情報共有しながら事業を進めていただきたいと考えております。事業終了段階についても、同様に自己評価を行った上で、相互評価を行っていただきますが、事業全体を通じての課題や改善案等共有し、事業の評価を行っていただきます。

下段については、協働事業終了後、第三者評価に係る流れを記載したものです。なお、全ての協働事業は、この自己評価・相互評価を実施していただきますが、資料1の事務局の意見に、「すべての事業に対して評価を行い、質や効果を高めていくことが望ましいが、実際には十分な評価をすることが出来ない恐れもある。」と記載しているとおり、全ての事業を細かく評価することは難しいと考えております。そのため、まず、既存の事務事業評価制度の枠組みを活用し、効果的・効率的に主要協働化事業を抽出します。併せて、事業担当課より提出のあった相互評価シートのとりまとめを市民協働推進担当が行います。これらをもとに評価対象とする事業について、事前に庁内各部の

調整役を担う管理職により構成される「市民協働推進委員会」と連携し、評価対象候補事業を約20～30事業を抽出いたします。その後、「市民協働推進会議」において、評価対象候補事業の中から約10事業程度に事業を選出したいと考えております。

委員意見にもございましたとおり、「評価のための評価制度ではなく、協働事業が課題解決のために効果的に実施されているかを評価」するものとしたと考えておりますことから、選出いただいた約10事業について、市民団体と市の事業担当課と意見交換会を実施することを検討しております。そして、意見交換会の内容を踏まえ、第三者評価を行っていただき、とりまとめた結果を答申いただく予定でございます。

ここまでで、質問等ございますでしょうか。

(委員) 資料2の協働事業評価フローについて、実施期間の長い事業は具体的にどのタイミングで自己評価・相互評価を行うイメージなのでしょうか。

(会長) 今の質問は、全ての資料の説明が終わった後、意見交換等も含めてまとめて事務局からお答えいただいてもよろしいでしょうか。それでは引き続き、事務局より資料の説明をお願いいたします。

(事務局) 資料3をご覧ください。

この評価を行うに当たって使用するシートを、前回の質疑や意見等をもとに、たたき台として作成しました。参考として平成17年に作成した職員用マニュアルに掲載している評価シートを添付しておりますが、このマニュアルに基づく評価は、事後評価のみとなることから、協働事業の効果をより高めていくためにも、事業の段階に応じて評価を行う必要があると考えております。

まず、自己評価シートでございますが、事業の計画段階、事業実施段階、事業終了段階の各段階に応じて、市民団体及び市の事業主管課が評価を行うことを考えております。プロセスの相互チェックは、事業の段階において気をつけるべきことを記載しており、評価について

は5段階評価で作成しております。なお、5段階評価としておりますが、事業の内容によっては馴染まない事業があると想定されますので、「事業の性質上この評価項目は不適當」という選択肢も設定しております。この自己評価シートについては、評価項目として5段階でよいか、また、項目の内容や項目数が適切かなどのご意見をいただければと考えております。

次に、相互評価シートについてです。

平成17年に策定した職員用マニュアルでは、相互評価を行う事としているものの、定められた書式がありませんでした。協働事業を実施するに当たっては、それぞれの特性を相互に理解した上で、互いの特性をいかし、より効率的に事業を進め、大きな効果をあげられるのかを考えなければなりません。そのため、市民側と市側がそれぞれ自己評価を行った上で、よりよい協働事業を行うために相互評価を行う必要があることから、自己評価シートと同じ項目を設定しています。評価欄については、それぞれが記載した自己評価シートに基づき、振り返りを行う中で、双方共通の認識をもって記載するものでございます。相互評価を行う中で、市民側と市側が記載した自己評価シートの点数に違いがあった場合、なぜその違いが出たのかなどを話し合った内容を意見欄に記入し、双方が話し合っただけの点数を評価の欄に記入いただくことを想定しております。

なお、この相互評価シートは第三者評価を行う上での基礎となりますので、重要なシートとなります。

また、全ての協働事業について自己評価及び相互評価を行っていただく予定ですが、各課からはこの相互評価シートのみを事務局に提出いただく予定です。この相互評価シートについても、評価項目等についてご意見をいただければと考えております。

次に、相互評価集計シートについてですが、事業担当課より提出のあった相互評価シートを集計し、一覧でご覧いただけるよう作成するものです。このシートにつきましては、庁内の市民協働推進委員会及

び市民協働推進会議での参考資料としての活用を考えております。

次に、協働事業の評価に関する意見交換会ヒアリングシート（案）をご覧ください。事務局といたしましては、事業の質や効果を高めるための評価制度と考えておりますことから、評価対象事業については、協働事業を実施した市民団体と市の担当課との意見交換会の実施を検討しております。意見交換会を行うに当たっては、委員の皆さんには、事前に2グループないし3グループに分かれていただき、相互評価シートをもとに、よりよい事業を行うために、協働の視点やよかったところ、工夫した方がよいところなどを市民団体や、市の事業主管課にヒアリングを行っていただくことを考えております。

2グループないし3グループに分かれていただく理由については、1つの事業に委員の皆さん全員が関わっていただいた場合、聞きたい質問が聞けない、時間がかかってしまうなどが考えられるためです。ヒアリングを実施後、委員それぞれに事業の評価を行っていただいたのち、グループでの判断をいただくことを想定しております。このシートにつきましては、第三者評価を行うに当たっての判断材料とするために必要な項目が設定されているか、ご意見をいただければと考えております。なお、評価項目については、新宿区を参考にしておりますが、こちらについてもご議論いただければと考えております。

最後に、第三者評価シートをご覧ください。

各グループによる意見交換会を踏まえ、それぞれの事業内容について、「市民協働推進会議」で情報共有を行っていただいた後、「市民協働推進会議」としての評価結果をこの第三者評価シートにまとめていただくことを想定しております。このシートについても、評価の結論を導くために必要な項目が設定されているか、ご意見をいただければと考えております。

資料の説明は以上でございますが、あくまでもたたき台でございます。項目の設定や意見交換会の必要性を含め、多くの意見を頂戴したいと考えております。よろしくお願いたします。

(会長) 資料1の一番左の項目1に「制度構築の目的」とあります。繰り返しになりますが、市民サービスの向上や地域課題の解決のための目標が達成されているかなど、事業そのものが協働の原則に適っているかという点が、評価及び今回の資料のシート等を検討するに当たって重要となります。評価のための評価ではなく、協働事業をより質の高い効果的なものとするために実施をするものですので、客観的かつ粘り強く行わなければいけないと考えています。

それを踏まえて、資料1については、議論が足りない部分を中心に意見をいただきたいと考えています。また、資料2については、そもそもの流れを再確認いただき、資料3については、5段階評価など、シートに記載されている内容に、評価の結論を導くために必要な項目が設定されているかご意見をいただきたいとのことですが、ご意見・ご質問等はございますでしょうか。

先ほど委員から出ていた評価のタイミングについて、事務局より説明をお願いしてもよろしいでしょうか。

(事務局)「事業計画段階の評価」とは、事業をどのように進めていくか話し合う打合せの段階で実施いただくイメージで考えております。「事業実施段階の評価」とは、1日だけの単発事業の場合は、事業計画から事業実施日までの間に、協働の原則に基づき進めることができているか、当日に向けて一度確認をするために実施いただくもので、年間を通じて行う事業の場合は、1回目の事業の前後など、適切なタイミングで実施いただくイメージでございます。「事業終了段階の評価」とは、全ての事業が終了した段階で計画から事業当日まで、協働の原則に基づき行うことができたか、また、事業全体としてどうだったかについて評価をしていただくイメージでございます。

(委員) 提案なのですが、長期の事業の評価のタイミングについては、「事業計画段階」において、それぞれ決めるようにするのはいかがでしょうか。

(会長) 本会議の中で選ぶ約10件程度の事業の中には、短期だけではなく、

長期の事業も含まれているのでしょうか。

(事務局) 行政は原則単年度会計のため、どうしても単年度事業が多くなってしまおうのですが、中には複数年度に渡って実施する協働事業もあるかと思しますので、様々な事業を想定してご議論いただきたいと考えております。

(委員) 事業実施段階の評価について、事業終了段階に評価を行っているものが多く、事業によっては実施段階で行うことは難しいのではないのでしょうか。

(会長) 予算編成のことを考えると、事業計画段階には前年度の夏・秋からの期間も含まれるのでしょうか。また、事業実施段階の評価と事業終了段階の評価の間にうまく違いがでてくるのかという点にも関わってくると思います。

(事務局) 予算編成前の協議ももちろん計画ではありますが、予算措置前の段階では協働のパートナーとの関係も未確定ですので、評価の対象にはなりにくいと考えています。そのため、事務局でイメージしている計画段階とは、予算措置後の当該年度に入ってからと考えております。

(委員) 先ほどの会長のご意見は、事業実施段階以前の協働主体の活動も含めて検討したほうが良いのではないのでしょうか。

(会長) 協働事業の中には予算を伴う事業もあるので、予算要求の段階も評価に含まれるのかと思っていたのですが、今の事務局からの説明では、当該年度になり、協働のパートナーを募集・確定してからが計画段階の評価の対象になるとの説明でしたので、理解しました。

(委員) 事業計画前の段階については、この会議で検討しなくて良いということでしょうか。

(会長) パートナーが決まっていない段階はフォーマルではないので、決まった後のほうが良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

(委員) 市が計画をして、協働相手を探す事業が対象になるということでしょうか。

(会長) その点も含めて、この会議の中でご意見をいただければと思います。

(委員) 協働事業には市主体で行うものと市民主体で行うものの2パターンがありますが、後者の事業も対象に含まれるという認識なのですが、いかがでしょうか。

(事務局) 本会議の中でもご審議いただいている「市民提案型協働事業」のように、市民主体の事業もございしますが、やはり多いのは、市が予算措置をしてから協働のパートナーを探すというものです。市民提案型協働事業については、予算を伴うものは予算が確定した翌年度から具体的に実施していくことになるので、提案いただいた段階を評価に入れるのは難しい面もあると考えています。そのあたりも含めて、ご議論いただければと考えております。

(会長) 予算を伴わない場合の計画段階をどこから判断するのかという点は非常に難しいところだと思います。

(副会長) 市民提案型協働事業については、担当課と実施団体が打ち合わせをしたのち、審査会を経て事業の実施が確定するので、ある意味、第三者に一度評価をされていると言えるのではないのでしょうか。そのため、協働のパートナーが正式に決定した翌年度、二者で評価を行うのが良いのではないかと考えています。

(委員) 事業計画段階とは、協働相手を探す段階からではなく、ある程度候補となる相手があり、その相手が決まってからということで、理解しました。

(委員) 評価のタイミングを決めるのは非常に難しいことだと考えています。評価することが目的になってしまうような気がします。

(委員) 様々な団体から相談を受けることがありますが、協働とは異なる主体同士が共に事業を行うことなので、事前のすり合わせは、お互いの違いや特性を理解するために非常に重要であり、そこがうまくいかないと事業が思うように進んでいかないことがあります。

また、評価のタイミングについては、単発の事業でさえも、事業実施段階の評価は担当者同士が口頭で行うのがやつの現状であり、長期の事業ともなると、評価が目的になってしまい、あまり合理的でな

いように思います。仕組みがないと協働ならではの質の違いを理解するタイミングもないため、短期の事業と長期の事業で、いくつかパターンを検討しても良いのではないのでしょうか。

(副会長) 複数年度に及ぶ事業は、半期に一度振り返りを行うなど、定期的に顔を合わせる必要があると思いますが、単発の事業でも行う必要があるか懸念されるので、事業によってパターン分けをすることは良いのではないかと思います。

(委員) 長期の事業では「修正」という意味も含めて、中期的な振り返りが必要だと思います。評価シートを完成させるための評価ではなく、協働の原則の下、実施できているか確認する必要があると思います。

(委員) 短期の事業における評価は事業終了段階の評価だけで良いのではないのでしょうか。

(委員) 評価を行う目的は市民サービスの向上であり、協働の手法が有効なのかどうか等を検討することですので、中期的な評価もしくは振り返りは何度も実施して良いのではないかと思います。評価というより、振り返りシートがあることにより、見直しができるのではないのでしょうか。自己満足になることが一番危険なので、原点に立ち返るという意味で、必要であると思います。シートの量もそこまで多くはなく、負担にならないと思われるので、有効だと思います。

(会長) 協働で事業を行う際、協働の定義についての認識は、行政と市民の間、また行政の部署によって異なる場合があるのではないかと思います。そのため、シートを作成することにより、主体間の認識の違いを理解し、コミュニケーションにも力が入るのではないのでしょうか。

(委員) 市と市民だけでなく、主体が複数いる協働事業の評価方法も検討する必要があると思います。

(会長) 主体が複数になる場合の各主体の関わり方には様々あるので、主体構成等を検討する必要があると思います。続いて、資料3の評価シートについて意見交換を行いたいと思います。いかがでしょうか。

(委員) 自己評価シート(案)について、中間支援組織が、主体として関わ

る場合や、市と市民の間に立ちコーディネートする場合がありますが、その際の役割や効果などを記載することはできないでしょうか。「お世話になった人リスト」のようなものを入れることはできないかと考えています。どのような支援があって実施することができたかを知ることができれば、「そこを強化すれば協働が進む」といった評価もできるのではないかと思います。

(副会長) その項目を入れる場合、自己評価シートと相互評価シートのどちらに入れるべきでしょうか。

(委員) シートとは別に、どのように関わったかを記載した資料等を添付することは可能だと思います。中間支援組織の関わり方にはある程度パターンがあるので、事業ごとに細かく記載するのではなく、大枠を作ると分かりやすいのではないのでしょうか。

(会長) 黒子として、中間支援組織が表に出てこない場合もありますが、いかがでしょうか。

(委員) 団体や市などの主体同士を「つなぐ」役割が多いので、事業主体としてメンバーになることはあまりないと思います。

(委員) 評価方法について、5段階評価は細かいようにも思われますが、非常に適しており、賛成です。

(会長) 私も5段階評価には賛成ですが、パーセンテージと言葉の表現について、20%以下が「まったく達成されなかった」という表現が妥当なのかどうかなど、検討する必要があると考えています。

(委員) 評価を行う前段階として、事業ごとに作成する事業計画書も、評価シートに対応させる必要があるのではないのでしょうか。

(会長) 作業のための作業になり、苦痛になってしまうので、このシートを見て、どのような評価項目があるのかを事前に知っていただければ良いのではないのでしょうか。

(委員) 「振り返り」という言葉であれば、反省から次に繋げる改善点を見つけるといった意味に捉えられますが、「評価」という言葉の場合、自己評価で「1」をつけてしまったら、もう協働で事業を行わせてもら

えないのではないかと感じ、低い点数をつけることに抵抗を感じることはないでしょうか。

(委員) 事業実施主体の方は、自分たちの自己評価がどのように使われるかということについて、どのように知ることができるのでしょうか。

(事務局) 協働で事業を実施するに当たり、事業実施主体は、より良い事業にしていこうという思いを持って実施いただいているものと認識しております。そのため、より良い事業とするための改善点という意味合いを含めて「1」をつける場合もあります。自己評価シートには、相互評価につなげるための他己評価という意味合いも含まれており、自己評価を元に相互評価を行っていくので、率直な意見を記入いただきたいと考えております。

(会長) 行政評価の場合は事業の継続・見直し・廃止という観点での評価となりますが、協働事業の場合は、事業をより良くしていくための評価として活用いただくことが重要ですので、継続か廃止か、といった視点ではないのではないかと思います。

(委員) 協働で事業を実施した結果、協働という手法が馴染まない場合も出てくるのではないのでしょうか。そういった観点も評価から把握することができれば良いのではないかと思います。

(委員) 評価シートの項目として入れるべきではないかということでしょうか。

(委員) 項目として設定するというよりも、評価を見的过程中で、炙り出されていけば良いのではないかと考えています。

(委員) 協働の手法が馴染むかどうかという点は、自己評価から第三者評価へと進んでいく中で明確になっていくものと思いますので、各評価がうまくつながっていくと良いのではないのでしょうか。

(委員) 事業実施主体が考える事業の継続性だけでなく、評価の中には、市として事業がどのように生かされていくかという観点も必要ではないかと思いますので、協働の広がりの可能性も、第三者評価に含めて良いのではないかと思います。

(委員) 第三者評価を行うに当たり、協働事業としての評価と、事業そのものの評価を同時に行ってしまうのでしょうか。

(会長) 市長には、市職員の意識をより強くしてほしいという思いもあるかと思うので、様々な事業において、協働の手法が適切なのかどうかを判断するため、事業そのものの内容も見ることがあると思います。

本来は、事業全体のことを最も把握しているのは事業実施主体のため、主体間で評価が完結されれば問題はないのですが、第三者評価は客観的な視点での評価を求められています。そのため、事業そのものの内容も把握しなければ、協働のあり方を検討することはできませんし、当事者では気付かないところを気付くようなものにシートを工夫する必要があるのではないのでしょうか。

(委員) 意見交換会ヒアリングシートは必要ないのではないのでしょうか。

(事務局) 現在、事務局でイメージしているヒアリングは、2グループないし3グループに分かれて意見交換を行い、意見交換終了後、本会議の中で第三者評価を行っていただくというものです。そのため、共通のシートを用いることにより、評価を行いやすくするために作成しております。なお、ヒアリングシートそのものが公開されることは想定しておりません。

(会長) 意見交換会に臨むに当たってのメモとしてあると、意見交換会後の本会議においても、役に立つのではないのでしょうか。

(委員) ヒアリング自体も、やらなくて良いのではないのでしょうか。

(委員) 第三者の視点が必要ですので、意見交換会の場は必要であると思います。

(委員) 「よかったこと」、「課題だったこと」、「今後やった方がいいこと」の3点を普段の振り返りの際に着目しているのですが、この自己評価シートを見ると、よかった点や工夫した点等を記載する項目がなく、その他の自由記入欄に記載するのか、もしくはヒアリングの際に口頭で聞くのか疑問を持ちました。ヒアリングシートを作成しないのであれば、そういった項目を自己評価シートに入れる必要があると思いま

す。

(委員) 自己評価シートの裏面にある「対象者満足度」とは、アンケート結果等を踏まえて記載するのでしょうか。アンケートの実施が馴染まない事業の場合、どのように把握すれば良いのでしょうか。

(事務局) 対象者満足度は、事業ごとに実施したアンケート結果を使用することを想定しております。ただし、事業によっては当然、アンケートの実施が馴染まないものもあるため、その場合は「評価できない」と記載いただくイメージで作成しています。

(委員) 自己評価シートの裏面にある「事業の成果」の欄について、「目標達成度」、「対象者満足度」、「予算や人的資源規模」は事業そのものの評価ですが、「事業実施者満足度」と「相乗効果は得られたか」については、協働で実施したことによる成果なので、順番を入れ替える必要があるのではないかと思います。

また、協働で実施したことによる成果は、自由記入欄に記載すれば足りる程度のもので、事業の成果の項目としてあえて設定する必要はないのか、もしくは最も聞くべきところであり、事業の成果欄の一番上に位置づける必要があるのかなど、整理をする必要があると思います。

(委員) 「市民、NPO、団体」という言葉が混在しているので、統一する必要があると思います。また、本会議で約10件の協働事業を抽出するに当たっての根拠について、市民と市との意見の間に幅があったものを選ぶのか、もしくは事業の効果が十分に得られた事業、得られなかった事業を選ぶのか等、議論の余地があると思います。

(事務局) 事業の選定については難しい面もありますが、協働のパイロット事業として、前向きに伸ばしていきたい事業や効果があったものはもちろん、事業効果がどうだったのか、と思われる事業につきましても、評価対象の候補に入れることができればと考えております。

(委員) 協働事業には様々な種類があるので、グループ分けは重要であると思います。全事業の行程や予算規模など、グループ分けに役立つよう

な資料があればいいと思います。

(副会長) ヒアリングシートが一番下に記載されている「評価項目」が気になります。意見交換会では事業実施主体から話を聞くだけで良いのか、または評価を念頭に参加しなければいけないのかによって、意味合いが異なってくるため、取扱いについて明確にさせていただきたいと思います。

(委員) 協働事業を応援し、伸ばしていくのであれば、思い切って評価の高い事業を公開し、市長から表彰していただけるようにするのはいかがでしょうか。

(会長) それでは、議論がつきませんが、時間もございますので、事務局は議論を踏まえ、次回までに資料等の準備をよろしくお願いします。

3 その他

(※事務局より委員へ、第4回会議開催の時期について連絡)

(※事務局より委員へ、追加の意見の提出は12月13日(日)頃までに送付するようにとの連絡)

(※事務局より、「市民協働推進シンポジウム」及び「市民協働まつりつながりフェスタ」の開催について案内)

(会長) それでは、次回は2月中旬とのことですので、事務局は意見をフィードバックするとともに、会議の開催日程の調整をお願いします。

以上をもちまして、第3回府中市市民協働推進会議を閉会いたします。